

# 輝 ねむろ

We Love Nemuro!

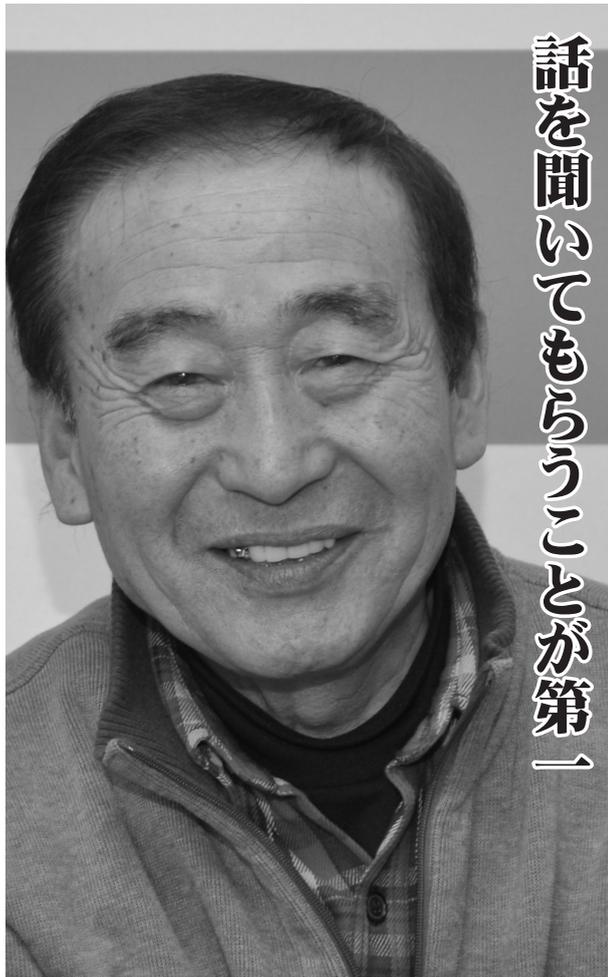
「お酒を好きな人が、すぐにお酒を止めることは難しいことです。依存は病気、一緒に頑張ろうという気持ちが大切。」と話すのは、酒害相談員を務める日理四行さんです。日理さんは、自分自身の断酒の経験を活かし相談に応じています。飲み過ぎからアルコール中毒や、それが原因となつて起こる精神障害・高血圧・内臓障害など、大なり小なりの問題を抱える人も少なくありません。

市内で酒店を経営している日理さんですが、13年前に体調を崩し、医師からの勧めで断酒会に入会。「一人で悩まず周囲の方々と、失敗談などを交えて話しをすることで、自意識が目覚めることにつながります。」と、当時の経験を振り返ります。お酒を前にすることは辛いですが、かとの質問に、仲間との交流が支えてくれているので、未練はありませんと笑顔を見せます。

## profile わたしこう 日理四行さん

根室市酒害相談員

1946年函館市生まれ。平成22年4月根室市酒害相談員に就任。東部地区連合根室断酒会事務局として院内相談などで活動。趣味はカメラを持つての山歩き。  
【酒害相談 毎月第3金曜日市役所和室】



話を聞いてもらうことが第一



断酒を乗り越え酒店を経営する日理さん

## 千島桜を望む窓

### 市長室のカレンダー

東日本大震災は、日本中に大きな衝撃を与え、被災した地域の一日も早い復興を願い、全国で支援の輪が広がっています。

4月13日、宮城県気仙沼市で被災した造船所経営の藤木雅之さんご夫妻が長谷川市長を訪れ、根室での再建に向けての決意を述べました。

藤木さん自身は、震災の日は道内におり、妻の久子さんとの携帯のメールで被災を知ったといいます。家族と従業員の無事を知って安心する反面、経営する造船所と自宅を大津波で失いました。「何とか再起の足がかりを」と20年来の付き合いのある根室の工藤造船所に相談し、施設や機材の提供の快諾を得て、根室での再出発を決意しました。

気仙沼での震災の様子を、まるで戦争の焼け跡のような状況と話し、難を逃れた被災者の死を目のあたりにした辛い現実をかみしめていました。

根室で本格的に作業が開始できるのも皆さんの支援と協力のおかげと藤木さんは感謝を述べ、長谷川市長も「困ったことがあれば何でも相談してほしい。できる限りの支援をさせていただきます。」とお見舞いの言葉を送りました。

